

戦略的補完的行動と震災後の自粛行為

慶應義塾大学経済学部 大垣昌夫研究会 研究グループ1班

岡寛樹 高橋寛行 高橋芳明 瀧本理沙子 布施宏規

* 要旨 *

昨年の東日本大震災直後、自粛の名のもとに企業はこぞって営利目的のCMの放送を取りやめ、また各方面でイベントや行事は次々と中止された。だが「自粛ムード」の中で、果たして私たちは本当に「喪に服し」「被害者を弔う」目的で自粛を行ったのだろうか。我々の研究グループでは「空気を読む」という行為に現れる戦略的補完性を独自に定義し、一連の自粛行為が、本来の目的とは離れた「空気を読む」＝「社会的コスト回避」のための行為であったと考えた。アンケートによるデータ集計の結果、ある行為に伴う社会的コストを大きく見積もる人ほど、自粛行為の必要性を感じているという予測を立てることができた。あくまで相関関係を確認したに過ぎないが、日本人の根底にある「空気を読む」という美意識が、震災後の自粛過剰化の一つの原因であったということは出来るのかもしれない。

* はじめに *

自粛による「第5の被害」＝経済的な損失は大きく、外食産業、耐久消費財の大幅な売上減退を招いた。我々が自粛という行為に興味を持ったのは、一連の行為が明らかにホモ・エコノミカスの視点から見て不合理であったからだ。マクロ経済では、需要の冷え込みは、最終的に国民所得の減退を引き起こすとされる上に、自粛に伴う機会費用も非常に大きかったはずだ。なぜこういった限定合理的な行為が「ムード」「あるべき姿」として日本を席卷したのだろうか。もちろん、自粛行為には被害者を弔うという目的が第一にあるだろう。日本はもちろん、世界中で同胞の死を悲しみ、喪に服するという文化がある中で、それを否定することは難しい。その一方で、「第5の被害」とまで言われる一連の自粛行為は明らかに過剰であり、本来以上の目的が潜んでいると思わずにはいられなかった。本研究は、この過剰な自粛行為をもたらした原因を究明することを通じて、日本人の持つ世界観・哲学・美意識の一部を明らかにすることを主旨としている。限定合理性をもたらす日本人の感覚の実態を明らかにすることは行動経済学の使命であり、本研究が、日本的感覚と経済行動の関係性を探る上で、今後の行動経済学上重要な意義を持つものと期待している。

* 同調・「空気を読む」・戦略的補完性 *

日本人の特質として、空気を読むという行為が頻繁にとりあげられる。「ことなかれ」の発想で周囲に同調することにより、自分の社会的ポジションを維持するという行為である。空気を読まない周囲からバッシングを受けたり、場の雰囲気が悪くなるなどの「罰」を与えられる。ここで、「空気を読む」ということを明確に定義するため、戦略的補完性に触れつつ、他の同調行為との違いを明確化しておく。

本研究では、戦略補完的な行動を「ある行為に伴う社会的コストの大小を見積もり、コストを避けることを行動規範とした結果、周囲に同調することを選択する」行為として定義する。故に、

空気を読む行為は社会的コストを判断基準とした選択の結果で戦略補完的であるのに対し、他の同調行為は社会的コストが伴わない状態での選択の結果であるとする。

ここでアッシュの同調実験を紹介しておこう。この実験ではモデルとなる棒が見せられ、被験者はいくつかの選択肢の中から、モデルの棒と同じ長さの棒を選ぶ。正解は一目瞭然なのだが、アッシュはここでサクラを数人用意し、そのサクラ全員に間違っただけの選択肢を選ばせると、多くの場合、被験者もその選択肢を選ぶ。日本人は「空気を読む」習慣があるので、一見するとサクラに同調する傾向が他民族よりも強いように思えるが、実際はむしろその傾向は弱く、個人主義敵民族として知られるアメリカ人と同等のものだったということが報告されている。この結果は、社会的コストの伴わない同調行為は、空気を読む行為とは異なる性質を持つ、ということができる。ここで注意されたいのは、空気を読む行為もあくまで同調行為の一部であるという点だ。ここでは同調行為のなかでも戦略的補完的なものを「空気を読む行為」、戦略補完的でないものを「単なる（他の）同調行為」と呼んでいる。

* 自粛と空気を読む行為 *

先ほどの定義を前提として、本研究では、空気を読むという社会的規範及び行為が自粛の過剰化をもたらしたという仮説を立てた。つまり、空気を読もうとする人ほど自粛行為の必要性を感じているという相関関係があるという仮説である。空気を読む行為と自粛に対する意識に正の相関関係が見られれば、社会的コスト回避が自粛過剰化の原因の一つであった可能性を示すことができる。そこで我々の研究グループでは、アンケート調査で得たデータを回帰分析することで、この相関関係の有無を明らかにしようと試みた。

* アンケート調査の概要 *

アンケート調査では8つの質問を用意した。そのうち6つは空気を読む行為に関する質問、残り2つは自粛行為についての質問であり、前者は説明変数、後者は被説明変数を導出するための質問である。質問の内容は後ほど記す。被験者は学生が中心で、計94人に対して紙媒体で実施した。自粛に関する質問は震災直後を仮想したアンケートであったため、震災後に企画の中止等の自粛行為をするかどうか、という選択に実際に迫られた経験のある人を対象とするのが理想であったが、アンケート実施期間が短かったため対象者の選別が難しく、学生中心の実験となってしまった。

* アンケートの内容 *

質問は6つが空気を読む行為に関するもの、2つが自粛行為に関するものである。「同調・「空気を読む」・戦略的補完性」で述べたように、被験者がどれほど空気を読むことを重視しているかというのは、被験者がその行為に対してどれだけの社会的コストを見積もるかに応じると考える。そのため、空気を読む行為に関する質問は、集団行動のなかで起こりうる出来事に対し「被験者が、空気を読まない行動をとった時にどれくらいの損失があるか、そうすることにどれくらいの抵抗を感じるか」を数値化するものとした。選択肢は①～⑤からなり、数が大きくなるほど損失を大きく見積もり、より大きな抵抗を感じることを示している。自粛行為に関する質問

は二つ用意したが、一つはダミーとして、節電に関する質問を用意した。個人レベルで節電をしなかった場合でも、社会的コストが発生するとは考えにくいためである。二つ目の質問は、被験者に、自分が震災後のイベントの企画者であると仮想してもらい、どれくらい企画を中止する必要性を感じるか、というものである。これも①～⑤まで5つの選択肢があり、数値が大きくなるほど必要性を強く感じていることを示している。自粛に関する2つの質問の前に、震災後の雰囲気を出してもらうために、「次の質問は、*昨年の東日本大震災後の自粛行為についての質問*です。震災後、企業の営利行為や市民の娯楽は不謹慎であるとして、全国的に「自粛ムード」が漂いました。テレビCMはACの放送するもののみとなり、花火大会や花見は中止が相次ぎました。その時のことを思い出しながら、質問に答えてください。」という注意書きを記載した。

* 質問一覧 *

* 空気を読む行為に関する質問 *

- ① 新しく始めたバイトは給料が良く、すぐになじむことができました。そんな中、あなたは今より給料の良いバイトを見つけました。自分の気持ちは給料の良いほうのバイトに傾いていますが、バイト先の仲間はやめないとほしうと言っています。そこで、バイトを辞め、給料の良い新たなバイト先に移動することで、あなたにどれくらいの不利益があると思いますか。
- ② 新たに入ったボランティアグループでおそろいものを買うことになりました。自分は欲しくない、買う必要はないと感じていますが、それを買わないことによってどれくらいの不利益があると思いますか。
- ③ 新社会人として就職したばかりのある日、飲み会が開かれました。1次会が終わり、上司や同僚は全員2次会に参加すると言っています。特に用事があるわけではありませんが、自分には行きたくないと思っています。そこで不参加を選択した場合、自分にどれくらいの不利益があると思いますか。
- ④ あなたは今茶髪です。就活で髪を黒染めしないことに対して、どれくらい抵抗を感じますか。
- ⑤ 不特定多数を相手にするネット上のやり取りにおいて、話の流れを無視した発言、コメントをすることによって、自分にどれくらいの不利益が生ずると思いますか。
- ⑥ 就職活動中のグループディスカッションで、他人の不正や間違いを指摘することによって、自分にどれくらいの不利益があると思いますか。

— 選択肢 —

- ①全く不利益はない ②あまり不利益はない ③どちらでもない
④やや不利益がある ⑤非常に不利益がある

(質問④は「不利益」という言葉を「抵抗」に置き換えて質問をした。)

自粛行為に関する質問

- ⑦ 震災後の節電に協力する必要はありますか。
- ⑧ あなたが幹事だったら、震災直後の宴会や飲み会を中止すべきだと思いますか。(余震等の天災の可能性は考慮に入れないでください)

—選択肢—

- ①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③どちらでもない
- ④ややそう思う ⑤強くそう思う。

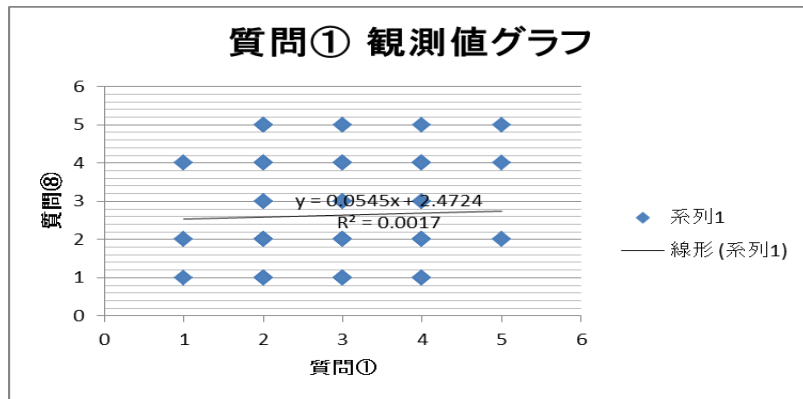
回帰分析の結果

アンケート結果を、Excel を用いて集計し、回帰分析を行った。正の相関関係の見られた質問を取り上げ、得られた数値を見ていきたい。回帰分析では、説明変数となる数値が質問①～⑥、被説明変数となる数値が質問⑧に対応する。

以下は、質問①、④、⑥についての単回帰分析の結果である。

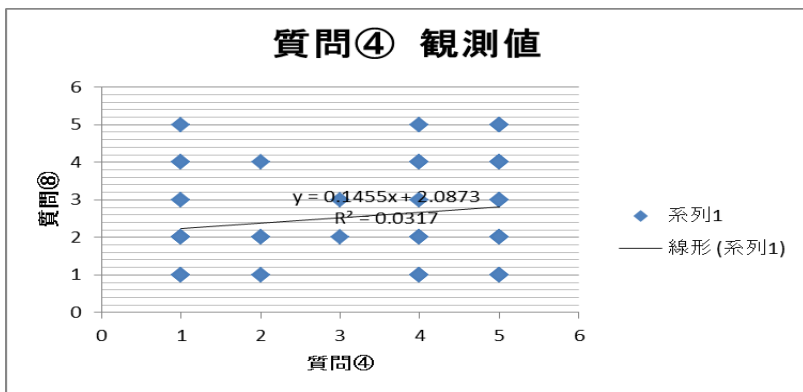
質問①

質問①	係数
切片	2.47241
X 値 1	0.054453



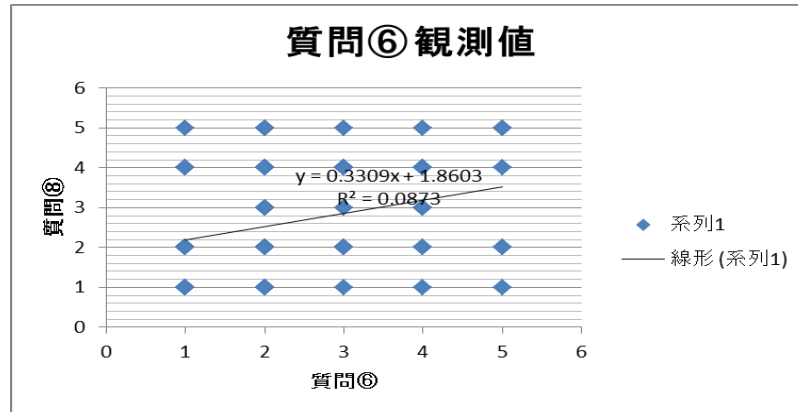
質問④

質問④	係数
切片	2.087298
X 値 1	0.145542



質問⑥

質問⑥	係数
切片	1.860294
X 値 1	0.330882



以下は、質問①～⑥をまとめて重回帰分析を行った結果である。

質問①～⑥	係数
切片	2.138821
X 値 1	0.263815
X 値 2	-0.10273
X 値 3	-0.0184
X 値 4	0.149743
X 値 5	-0.15053
X 値 6	0.381534

(X 値は、質問番号に対応している)

考察

質問①、④、⑥について正の相関関係が見られ、仮説に対して整合的であることがわかった。これに対し、質問②、③、⑤については整合的な結果を得ることができなかった。この原因について考察したい。

これらの質問は、六つの質問の中でも特にリアリティがあり、研究グループの中では強く正の相関関係が見られると期待していた質問であった。従ってこれらの質問では、他の質問とは異なり、不利益がある前提で選択肢を作り、より正確に被験者の見積もりを計ることが必要だったのかもしれない。正確な計測にはそれだけ細かい選択肢を用意すべきだった。ところが、実験での選択肢のうち「不利益がある」と感じた際に選べるのは「④やや不利益がある」と「⑤非常に不利益がある」の二つのみであった。「不利益がある」という趣旨の選択肢を細分化することで質問を改善すれば、より正確に被験者の心情を反映し、我々の期待通りに強い正の相関関係を観察することができるかもしれない。

質問①、④、⑥に関しては正の相関関係が見られたものの、質問①の係数は0に近く、標本数を増やした時に同じような結果が出るかどうかはわからない。

* 結論 *

結果と考察から、「ある行動に伴う社会的コストを大きく見積もる人、つまり空気を読むことを重視する人ほど、震災後の自粛行為の必要性を強く感じている」という仮説が正しいということは言い切ることは難しいが、質問内容を改善すれば仮説を正しいと結論づけることができそうだ、という予測を立てることはできた。

今後の研究成果として仮説の正しさを裏付けることができれば、震災後の過剰な自粛行為が、自粛の本来の目的から離れてしまった原因の一つが社会的コストを避けるための「空気を読む」という行為にあった、ということができるだろう。

震災後の自粛行為に関する社会的な研究はそれほど多くない。本研究とこれに続く研究が「自粛ムード」の本質を明らかにすることにできれば、自粛過剰化の原因だけではなく、自粛の本来あるべき姿を社会全体に示すことに繋がるのではないだろうか。

* 参考文献 *

- 山本七平, 1977. 「空気」の研究. 文春文庫
- Yohtaro Takano and Shunya Sogon, 2008. Are Japanese More Collectivistic Than Americans? *Journal of Cross-Cultural Psychology*.
- Akarof, G. A. and R. E. Kranton, 2010. *Identity Economics*. Princeton University Press, Princeton.
- 青木昌彦, 1995. 経済システムの進化と多元性-比較制度分析序説. 講談社学術文庫. 18.
- 横山隆治 and 山本直人, 2011. ポスト 3.11 のマーケティング-企業は、消費者はどうかかわるのか-. デジタルコンサルティングパートナーズ.